

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24590598

研究課題名(和文) 医師として適切な服装・言動とは？ 医師・患者の横断調査

研究課題名(英文) Importance of physicians' attire

研究代表者

栗原 宏 (Kurihara, Hiroshi)

筑波大学・附属病院・病院講師

研究者番号：90529603

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：医師の服装・身だしなみは患者との関係構築の上で重要であると考えられているが、実際の程度重視され、またどのような服装・身だしなみが適切・不適切なのか具体的に調査されていない。これらの点を明らかにすべく、本研究を実施した。

医師の服装・身だしなみは医師の話し方や評判に匹敵する評価であった。医師の服装として、白衣は年齢や性別に関係なく適切な服装と見なされている。清潔さでは白衣より優れているとされるスクラブに関しては、概ね良好な評価である一方、高齢層には好まれていないという結果であった。具体的なデータにより、これまであいまいであった適切な服装を具体化できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of the present study was to determine the importance of physician attire in inspiring confidence in patients, patient preferences and factors influencing the impression made by the clothing worn by doctors. Attire is one of the important factor that inspires patient confidence in physicians. White coats were deemed the most appropriate clothing style for doctors, followed by scrubs. However, older participants perceived scrubs to be less appropriate attire than younger subjects. We believe that this result influences good patient-doctor relationship.

研究分野：プライマリ・ケア

キーワード：患者・医師関係 服装 身だしなみ プライマリ・ケア

### 1. 研究開始当初の背景

医師の服装は非常に多様化している。医療機関によってはユニフォームが支給されている場合もあるが、特に規定がなく、服装が個人の裁量に任されている場合も少なくない。動きやすさ、通気性、清潔さなどの衣料品としての機能面や、患者から見て信頼感や親しみやすさなどの患者・医師関係構築のツール面や医師個人の嗜好によるファッション面などいくつかの要素を総合して、医師はその自分の服装を選んでいる。しかしながら、信頼感や親しみやすさ等に関しては、医師側が「患者がそう考えているであろう」という想像しているにすぎず、実際のところ、患者側が本当にそう考えているかに関しては、十分調査されているとは言い難い。衛生面や機能面で適切と考えていた服装が、患者たちに対して不快感を与えたり、医師としては不適切と思われるかと思われれば、関係構築の上で障害となる可能性もある。

服装・身だしなみの重要度がわかれば、これらに対してより真剣に取り組む必要性が明確となると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究は、質問票を用いた横断研究である。背景を踏まえて、以下を目的とする

医師への信頼感に対して、服装・身だしなみが他の要因と比較して、どの程度重視されるかについて明らかにすること

患者から見た医師としてふさわしい服装・身だしなみを明らかにすること

医師の服装・身だしなみの評価に関連する要因について検討すること

患者と医学生との認識の相違を明らかにすること

### 3. 研究の方法

当初、医師を対象とした服装調査を行う予定であったが、十分なサンプルを集めることが

困難であったため、今後医師になる医学生を対象として調査を行った。

医師の信頼感に対する影響要因

信頼感に影響を与える項目について、「服装・身だしなみ」、「話し方」、「医師の年齢」、「医師の性別」、「肩書き(教授、部長など)」、「周囲の評判」の6項目を調査。回答には、「とても重要」、「やや重要」、「どちらでもない」、「あまり重要でない」、「まったく重要でない」の5段階スケールを用いた。

医師の服装調査

提示する服装は、男性医師・女性医師とも長袖白衣、スクラブ、セミフォーマル、スマートカジュアル、カジュアルの5種類とした。「医師としての適切さ」について「とても思う」、「やや思う」、「どちらでもない」、「あまり思わない」、「まったく思わない」の5段階リッカートスケールを用いた。

医師の身だしなみ

男性医師・女性医師共通5項目(「白衣が汚れている」、「名札がない」、「革靴」、「スニーカー」、「サンダル」)、男性医師4項目(「ピアス」、「髪を染めている」、「整えたひげ」、「無精ひげ」)、女性6項目(「髪を染めている」、「髪を束ねていない」、「イヤリング・ピアス小」、「イヤリング・ピアス長」、「短いスカート」、「ハイヒール」)に決定した。

各項目に関して「とても適切である」、「やや適切である」、「どちらでもない」、「あまり適切でない」、「まったく適切でない」の5段階リッカートスケールで調査した。

調査方法

患者対象調査

調査場所：茨城県(つくば市、北茨城市)、新潟県(新潟市、新発田市)、東京都内(JR御茶ノ水駅前)の調剤薬局の店舗内

対象：医療機関受診後、処方薬を受け取るために来局した患者もしくはその付き添い各100人。本研究への同意を得られた年齢20

歳以上の人を対象とした。体調不良、認知症、回答が困難な人は除外。

調査期間：2012年5月中旬～9月下旬 各施設で二日間。

サンプリング方法：連続サンプリング

調査方法：自記式アンケート調査

#### 医学生対象調査

調査場所：筑波大学、順天堂大学

対象

・筑波大学医学群医学類 2012年度の1年生および5年生全員

・順天堂大学医学部 2012年2年生および6年生全員

・実施日：2014年4月～12月の各1日

サンプリング方法：全数調査

#### 解析方法

**医師に対する信頼感に関連する要因** 各項目の評価について、5段階スケールで、「とても重要」から「まったく重要でない」をそれぞれ5～1点まで点数化し、各項目の平均点を比較した。各項目の平均点について、性別、地域、年代層(20-34歳、35-49歳、50-64歳、65歳以上)でt検定、分散分析を行った。また、5～4点を「重視」群、3～1点を「非重視」群と定義した。

#### 医師の服装・身だしなみに対する評価

各服装・身だしなみの評価に関して、5段階スケールで「とても思う」から「まったく思わない」、「とても適切である」から「まったく適切でない」を、それぞれ5～1点まで点数化し、各項目の平均点を比較した。各項目について、単変量解析として性別、地域、年代層でt検定、分散分析を行った。事後比較には Tukey の多重検定を使用した。

医師の服装に関して、性別、年代層、地域の二つ以上の項目で差があった服装に関

して否定的とする要因を解析するために多変量解析を行った。5～3点を肯定群、2～1点を否定群の二群に分け、服装・身だしなみの各項目への評価(1:否定、0:肯定)を従属変数、性別、地域、年代層を独立変数、「男性」、「つくば」、「20-34歳」を基準として二項回帰ロジスティック分析を行いオッズ比(以下OR)を算出した。

#### 4. 研究成果

主な結果を記載する。

##### (1) 信頼感への影響要因

信頼感に影響する要因に関して、スケールで5および4点とした「重視群」の割合は、「話し方」94.3%、「評判」79.2%、「服装・身だしなみ」77.8%、「医師年齢」31.6%、「肩書き」31.4%、「医師性別」16.5%となっていた。服装・身だしなみは8割近くが重視していることが明らかとなった。「服装・身だしなみ」の項目を性別間、地域間、年代層間で詳細に検討を行ったが、性別間、地域間、年代層間に関係なく重視していることが判明した。

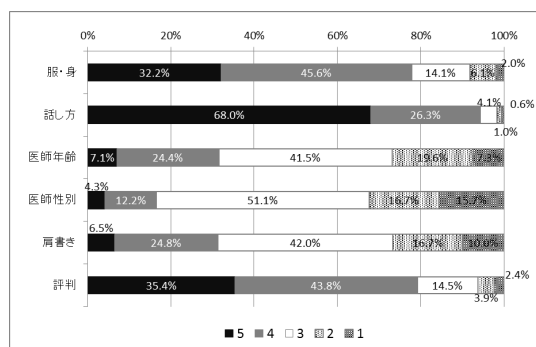


図1 患者から見た医師の信頼感に影響する要因

##### (2) 男性医師の服装

図3に示すとおり、白衣が最も適切な服装とされ、スクラブはそれに次ぐ結果であった。その他の3種類の服装に関しては、適切とみるのは半数以下であった。スクラブに関しては、地域間、年齢層で有意な差を認めた。特に年齢層に関しては、35歳未満の若い層に対

し、高齢層が高くなるほど否定的と捉える真回答が増加した。

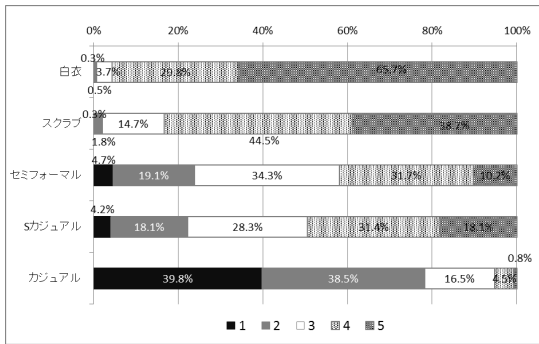


図2 男性医師の服装別の適切さの評価

### (3) 女性医師の服装

図3のごとく、男性医師同様白衣が最も適切で、スクラブがそれに次ぐ結果であった。スクラブは男性医師と同様に、地域間、年齢層で有意な差を認めた。特に年齢層に関しては、35歳未満の若い層に対し、高齢層が高くなるほど否定的と捉える回答が増加した。

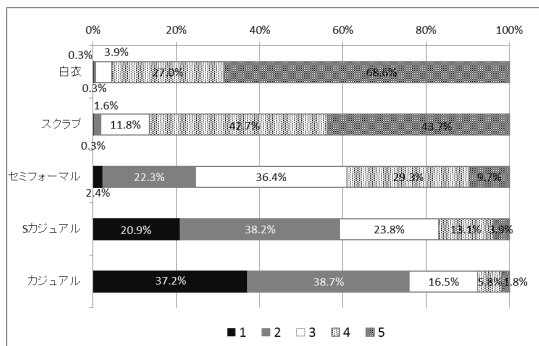


図3 女性医師の服装別の適切さの評価

### (4) 身だしなみ

図4に身だしなみの各項目に対する評価を示す。名札の未着用および汚れた白衣は9割以上が不適切と評価された。サンダルは革靴、スニーカーに比べ、不適切とする回答が2倍程度多かった。

男性医師に関してはピアス、無精ひげは約8割が不適切と回答した。

女性医師に関しては、長髪を束ねない、長いピアス、短いスカート、ハイヒールが7割程度不適切とする回答であった。

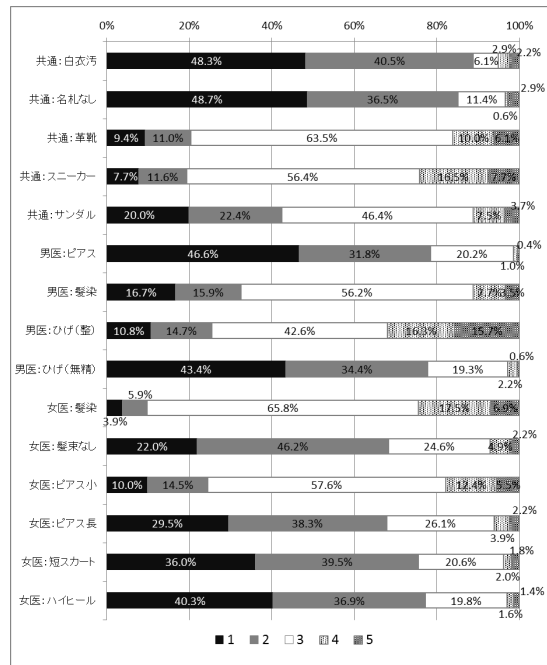


図4 各身だしなみに対する適切さの評価

### (5) 医学生との比較

医師の信頼感に関連する要因に関して、患者と医学生間で比較を行った。服装・身だしなみに関しては、医学生の方が有意に高い評価をしていた。少なくとも医学生は服装・身だしなみが医師として重要な要因であると考えられていると考えられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

Hiroshi Kurihara, Takami Maeno, Tetsuhiro Maeno, Asia Pacific Family Medicine、査読有、Vol.13、2014、1-7  
DOI: 10.1186/1447-056X-13-2

〔学会発表〕(計3件)

栗原宏、前野哲博、前野貴美、医師として適切な服装とは？ 患者と医学生の比較、第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、2012年9月1日、福岡国際会議場(福岡県・福岡市)

栗原宏、前野哲博、前野貴美、患者から見た医師の服装の適切・不適切 - 茨城、東京、

新潟の5地域で調査 - ,第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会,2013年5月18日,  
仙台国際センター(宮城県・仙台市)

栗原宏、前野哲博、前野貴美 その身だしなみは大丈夫?,患者と医学生の比較調査,  
第5回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会,2014年5月11日,岡山コンベンションセンター(岡山県・岡山市)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.apfmj.com/content/13/1/2>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

栗原宏(KURIHARA Hiroshi)

筑波大学・附属病院・病院講師

研究者番号:90529603

### (2)研究分担者

前野哲博(MAENO Tetsuhiro)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号:40299227

前野貴美(MAENO Takami)

筑波大学・医学医療系・講師

研究者番号:80528480

河村由吏可(Kawamura Yurika)

筑波大学・附属病院・病院講師

研究者番号:90379983